

据付手順

- | | | |
|----------------|-------------------|---------------|
| STEP 1 安全上のご注意 | STEP 4 室内ユニットの据付け | STEP 7 試運転と確認 |
| STEP 2 付属部品の確認 | STEP 5 室外ユニットの据付け | |
| STEP 3 据付場所の選定 | STEP 6 必要なときに | |

STEP 1 安全上のご注意 必ず守ってください

- ◆据付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据え付けてください。
- ◆据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

◆本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。



警告

死亡や重傷を負うおそれがある内容。

- 配線を途中で接続しない、電源コードを束ねない、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしない。
(発熱や感電、火災の原因)
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内にR32以外の空気などを混入させない。
(空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 指定冷媒(R32)以外は使用しない。
(機器の故障や破裂、けがなどの原因)
- 調理室など油煙の多い所、または可燃性ガス、腐食性ガスや金属製のホコリのある場所には据え付けない。
(水漏れや火災、故障の原因)
- 可燃性のもの(ヘアスプレーや殺虫剤など)は本体の近くで使用しない。
(ひび割れや感電、引火の原因)
- 据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
(水漏れや感電、火災の原因)
- 据付工事は、付属品および指定の部品を使用し、この据付説明書に従って確実に進行。
(ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因)
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に進行。
(ユニットの落下によるけがの原因)
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付説明書に従って施工し、専用回路を使用する。
(感電や火災の原因)
- 据付工事は、電源を切って行う。
(電気部品に触れると感電の原因)
- 漏電しゃ断器を取り付ける。
(感電や火災の原因)
- 室内外ユニット間および電源の配線は、内線規程に従って所定の電線を用いて接続し、端子部に電線の外力が加わらないよう確実に固定する。
(発熱や感電、火災の原因)
- 室内外ユニット間および電源の配線は、閉鎖弁カバーなどが浮き上がらないよう電線を成形し、カバーを確実に取り付ける。
(端子部の発熱や感電、火災の原因)
- ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。
(圧縮機を運転したまま、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。
(冷媒配管が取り付けられておらず、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気し、据付工事完了後は冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
(冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因)
- 配管、フレアナット、工具はR32用、もしくはR410A用のものを使用する。
(R22の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因)
- フレアナットはトルクレンチなどで指定の方法で締め付ける。
(締め過ぎると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因)
- アース工事を確実に進行。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しない。
(感電や火災の原因)


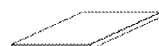
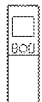





注意

傷害を負うおそれ、または物的損害が発生するおそれがある内容。

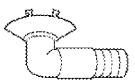
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所へは据え付けない。
(発火の原因)
- 室内外ユニットの吸込口やアルミフィンにさわらない。
(けがの原因)
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には据え付けない。
(小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因)
◆お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 室外ユニットの天板を外すときは強くにぎらない。
(鋭利な板金によりけがの原因)
- ドレン工事は、この据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
(屋内に浸水し、家財などをぬらす原因)

STEP2 付属部品の確認

室内ユニット

㊦ドレンホース  1個	㊧断熱シート  2枚	㊨ワイヤレスリモコン  1個	㊩リモコンホルダー  1個	㊪乾電池単4  2本	㊫リモコンホルダー 取付ネジ M3×20L  2本
㊬本体固定用 トラスタッピンネジ M4×25L  6本	㊭光触媒空清フィルター  2個	①取扱説明書 ②据付説明書 ③保証書 各1部			

室外ユニット

①ドレンソケット  1個	◆システムマルチの場合、 マルチ室外ユニットに付属の 据付説明書に従ってください。
---	---

現地調達部材

品名	仕様
ドレン配管 (硬質塩ビパイプ)	VP20(外径φ26mm) その他必要に応じてソケット、エルボなど
接着剤	塩ビ系接着剤
断熱材	配管断熱用、ドレン配管断熱用 それぞれ肉厚10mm以上の発泡ポリエチレン
内外連絡電線	VVFケーブル(φ1.6mm-3芯 いずれか φ2.0mm-3芯)
冷媒配管	STEP5 ㊲冷媒配管を接続する を参照
本体固定用当て木	STEP3 ㊳半埋込設置について を参照

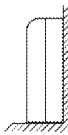

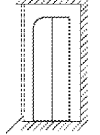
別売品

品名	品番
木台	KKM982A1

STEP3 据付場所の選定

室内ユニット

- 吸込口、吹出口に障害物のない所。
- 近くに熱や蒸気の発生がない所。
- 電子式点灯方式(インバーターまたはラピッドスタート方式)の蛍光灯から出来るだけ離れた所。(リモコンの受信距離が短くなる場合があります)
- テレビ、ラジオなどから1m以上離れた所。
(映像が乱れたり、雑音が生じることがあります)
- 火災警報器から吹出口までが、1.5m以上離れた所。
- 据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。
- ◆設置場所のドアや引き戸のすき間を目張りしないでください。
- ◆システムマルチの場合、配管長・高低差・据付寸法などはマルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ◆室内ユニットの設置パターンは、図のように3形態が可能です。

露出設置	半埋設置	埋込設置
		 格子(現地調達品)

室外ユニット

- 排水されたドレン水が流れても問題のない所。
- 吸込口、吹出口に障害物のない所。(降雪地では、雪でふさがれない所)
- 雨、直射日光があたりにくく、風通しの良い所。
- 吹出側正面から強風が連続的に吹き付けない所。
(ファンが高速で逆回転し、破損するおそれがあります)
- 海岸地域など塩分が多い所、硫化ガス成分が多い所、機械油などの油の蒸気が発生する所は避ける。
(室外ユニットの寿命が短くなる場合があります)
- 消防法および都道府県の条例などを満足する所。
- 運転音や冷(湿)風が隣家の迷惑にならない所。
- テレビ、無線機などのアンテナより3m以上間隔を取れる所。
- 据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。

リモコン

- リモコンホルダーを取り付ける場合は、取付位置で信号が受信されることを確認する。部屋に蛍光灯が取り付けられている場合は、蛍光灯を点灯させた状態で確認する。

STEP3 据付場所の選定 つづき

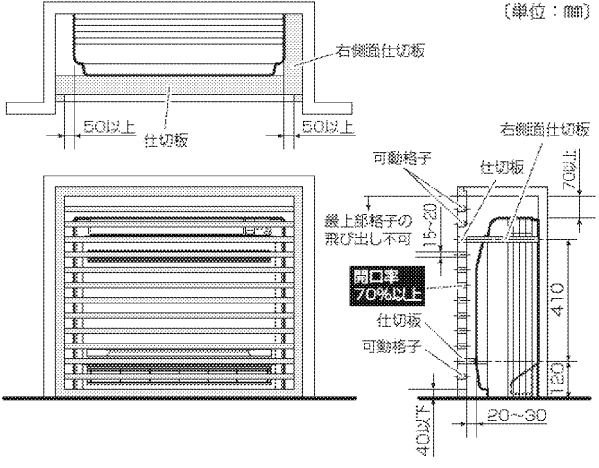
埋込設置について

埋込設置の場合は、次の基準を守る。
(冷えない、暖まらないおよび家屋構造の結露などの原因)

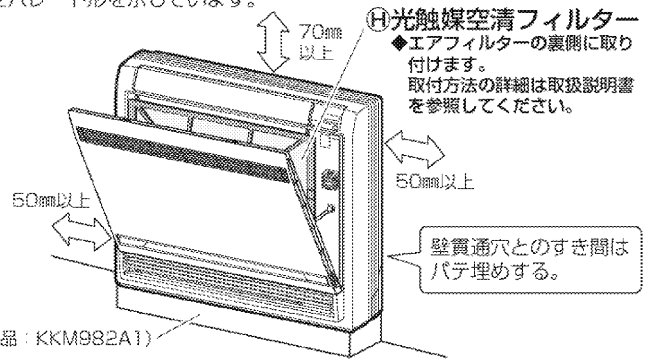
- 冷温風のさまたげにならないように、本体と天井の間隔を十分にとる。
- 吹出口と吸込口の間には、仕切板を入れる。
- 右側面には、仕切板を入れる。
- 上吹制限スイッチの切換えを行う。

(STEP4 D室内ユニットを取り付けるを参照)

- 吹出口の格子は、冷温風の風向を調節できるように可動格子にする。
- 格子の寸法は、開口率70%以上になるようにする。



◆本図はセパレート形を示しています。



ホースは下り勾配にする。

仕上げテープを巻くときは下から上へ巻く。

配管化粧カバー(現地調達品)

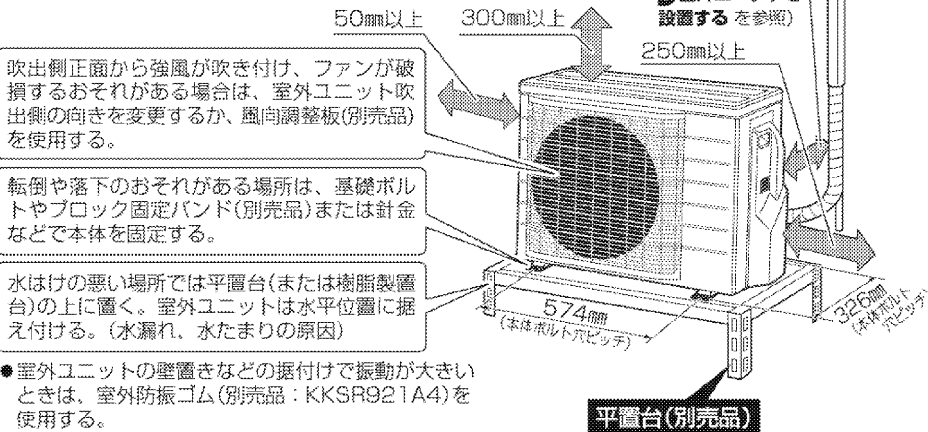
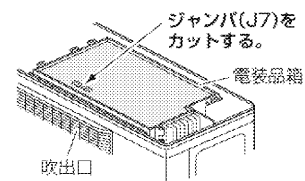
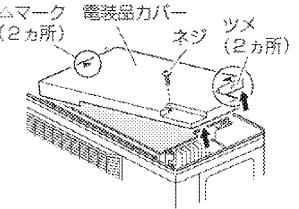
※50mm以上
◆据付場所によって異なる場合があります。(STEP5 D)室外ユニットを設置するを参照)

	最大 連絡配管長さ	最大 高低差
2.8kW, 3.6kW機	25m以内	15m以内
4.0kW, 5.0kW, 5.6kW機	30m以内	20m以内

◆連絡配管が1.5mを超える場合は冷媒追加してください。
配管1mあたりの冷媒追加量: 20g/m
また、室外ユニットのプリント基板にあるジャンパ(J7)をカットしてください。

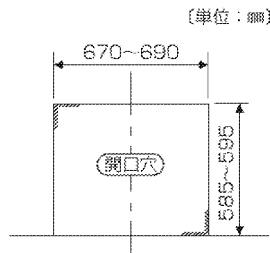
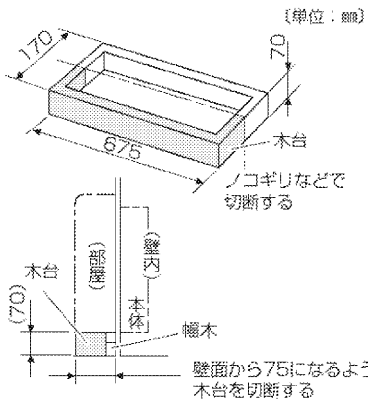
[ジャンパ(J7)の位置]

●電装品カバーの外しかた
◆ネジ1本と△マーク2カ所のツメを外した後、図のように傾けて電装品カバーを取り外してください。

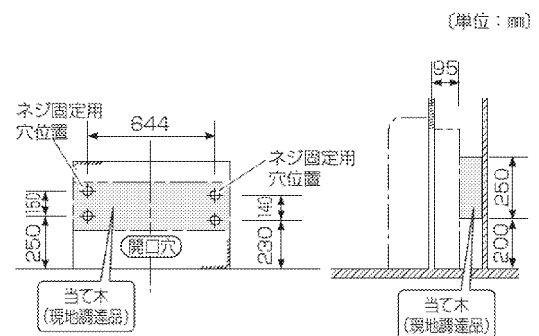


半埋込設置について

- ①木台(別売品: KKM982A1)を設置する。
◆輻木がある場所への据付けは、木台(別売品: KKM982A1)を使用してください。
◆据付場所選定後、輻木の出代に合わせて、木台の奥行調節をしてください。
- ②図の寸法に従って壁開口穴を開ける。
- ③本体固定用当て木を設置する。
◆本体背面は図の位置でネジ固定できます。図の壁内奥行寸法に合わせて必ず当て木を設置してください。



当て木を設置しないと、背面にすき間ができ、本体の固定ができません。



STEP4 室内ユニットの据付け

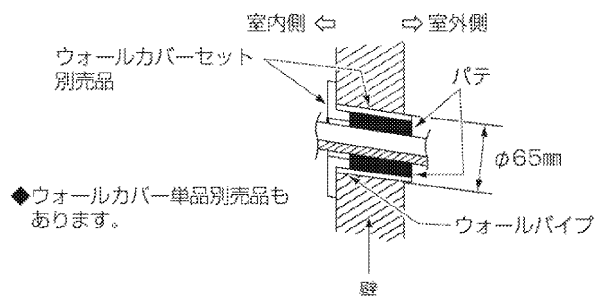
穴あけについて

警告

特にメタルラス、金属板を使用している壁を貫通させるときは、ウォールカバーとウォールパイプを必ず使用する。(発熱、感電、火災の原因)

壁貫通穴とのすき間は必ずパテ埋めをする。(外気侵入による結露防止のため)

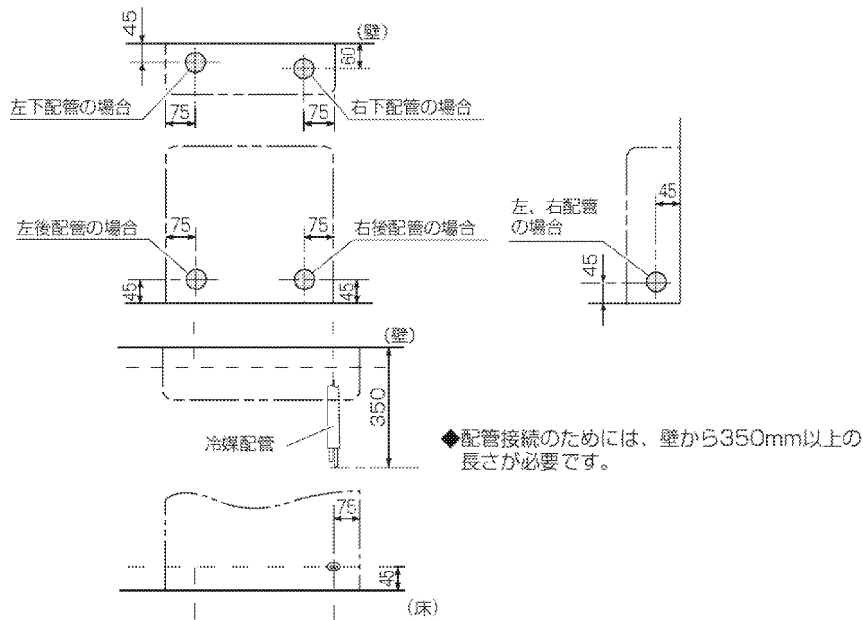
- ①壁にφ65mmの穴を、室外側が下り勾配に開ける。
- ②ウォールパイプを穴に通す。
- ③ウォールカバーをウォールパイプに差し込む。



- 図の○の所に貫通穴を開ける。
◆配管取出し方向によって、貫通穴の位置は異なります。
- 配管は **STEP5 ② 冷媒配管を接続する** を参照して、選定する。
- 室内ユニットの配管接続をやりやすくするために、配管は多少前後左右自由に動かせる状態にする。
- 配管の先端はゴミ、水分の侵入防止のため、キャップあるいはテープで密封する。
- 配管長さは、2.5m以上を推奨。

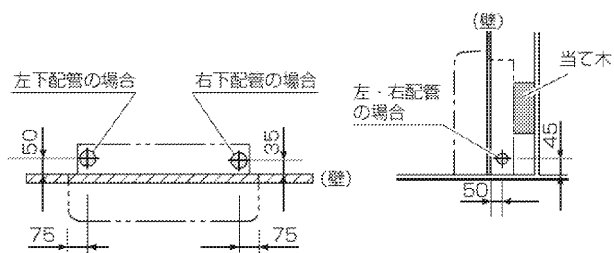
露出設置の場合

(単位: mm)



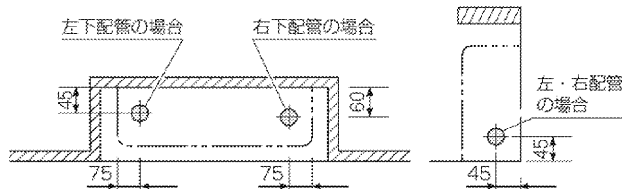
半埋設置の場合

(単位: mm)



埋込設置の場合

(単位: mm)



STEP4 室内ユニットの据付け っつき

1 室内ユニットを取り付ける

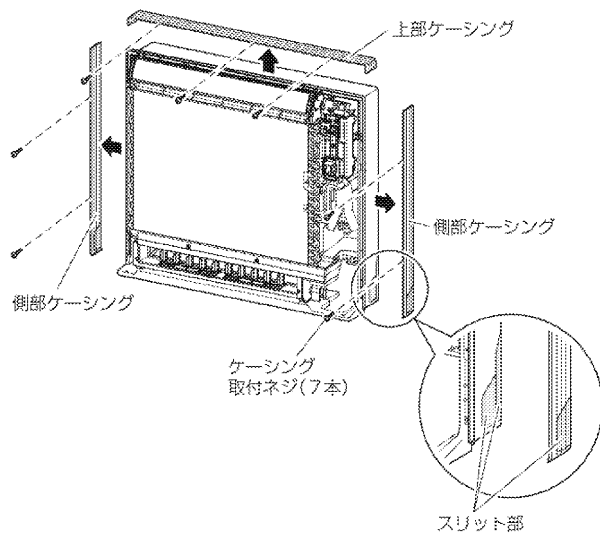
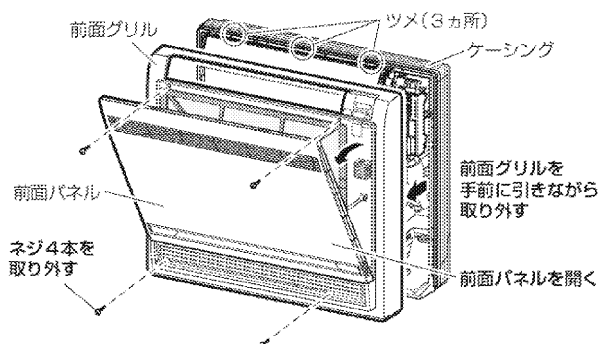
露出設置、埋込設置の場合

1. 室内ユニットの準備を行う。

- 前面パネルを開いて、ネジ4本を取り外し、前面グリルを手前に引きながら取り外す。
- ◆ 幅木がある場合は、底フレームのスリット部をニッパで取り除いてください。(左右共)

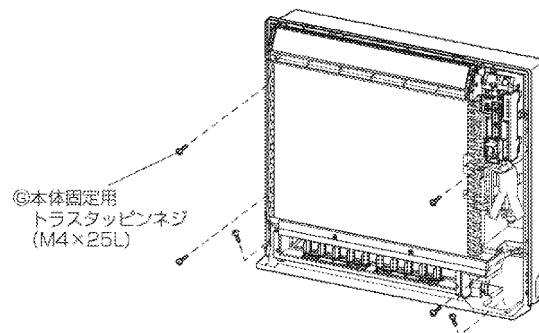
ケーシングの取外しかた
 ①ケーシング取付ネジを取り外す。
 ②上部ケーシングを取り外し、側部ケーシングを取り外す。

- ◆ 左・右配管の場合も同様にして底フレームとケーシングのスリット部をニッパで取り除いてください。



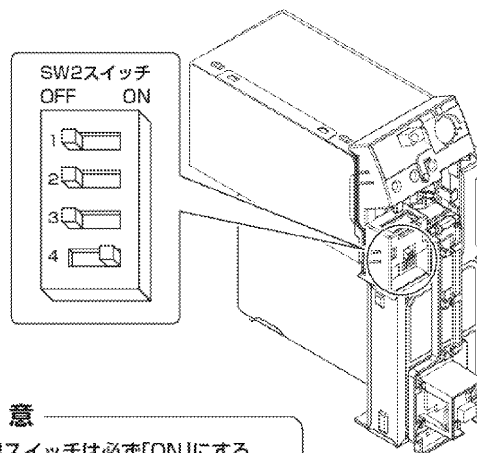
2. 室内ユニットを設置する。

- 室内ユニットを設置した後、床および壁に◎本体固定用トラスタッピンネジ6本(M4×25L)で固定する。
- ◆ 室内ユニットの水平出しはケーシング天面を利用してください。



上吹制限スイッチの切換えについて(埋込設置の場合)

- ◆ 埋込設置の場合は、電装品箱プリント基板上にある上吹制限スイッチ(SW2-4)を「ON」に切り換えて、吹出角度の上限制限を行ってください。



注意

上吹制限スイッチは必ず「ON」にする。
 (「OFF」のままだと、冷えない、暖まらないおよび家屋構造の結露などの原因)

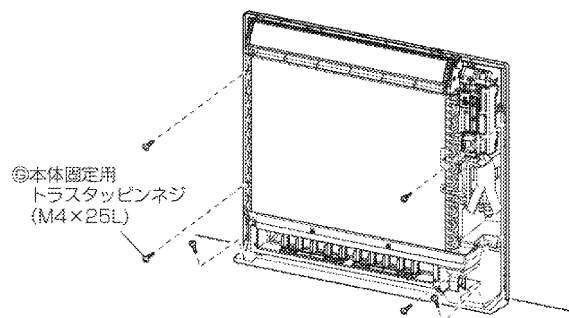
半埋設置の場合

1. 室内ユニットの準備を行う。

(露出設置、埋込設置の場合)を参照)

2. 室内ユニットを設置する。

- 室内ユニットを壁開口穴に設置した後、下面(木台)および背面の当て木に◎本体固定用トラスタッピンネジ6本(M4×25L)で固定する。
- ◆ 室内ユニットの水平出しは、ドレンパン縁を利用してください。
- 室内ユニットと壁面とのすき間ができない様に固定する。

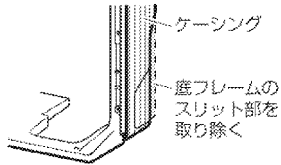


STEP4 室内ユニットの据付け っづき

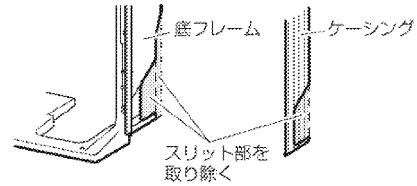
2 配管、ドレンホース、電線を引き回す

1. 幅木がある場合や、左・右配管の場合はスリット部を取り除く。

幅木がある場合



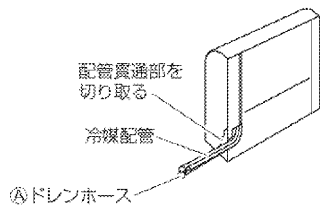
左・右配管の場合



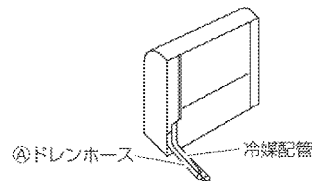
2. 図の配管取出し方向により、配管、㊦ドレンホース、連絡電線を引き回す。

◆㊦ドレンホースは必ず下り勾配にしてください。

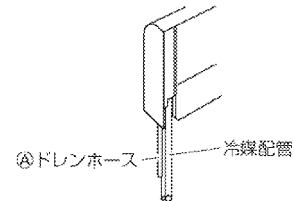
右配管の場合



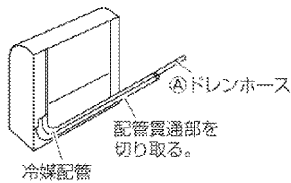
右後配管の場合



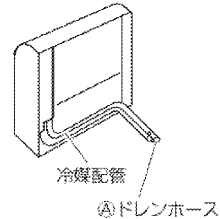
右下配管の場合



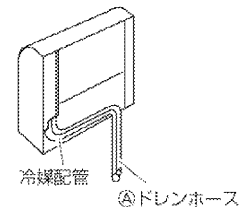
左配管の場合



左後配管の場合



左下配管の場合



冷媒配管を引き込み、配管を接続する。

3 冷媒配管を接続する

1. 補助配管先端のフレアナットをスパナで2丁掛けして、外す。
2. 配管類を壁貫通穴より引き出す。
3. 配管を接続する。

◆必ず2丁スパナでトルクレンチを使用してください。

(断熱方法と締付トルクについては、STEP5 2 冷媒配管を接続する を参照)

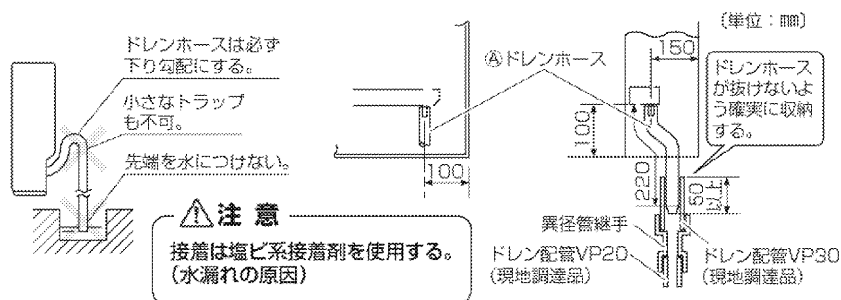
◆曲げはなるべく少なく、ゆるやかに。曲げる際はパイプベンダーを使用してください。(曲げ半径は30~40mm以上)
急に曲げると、その部分で断熱材が圧縮され、結露することがあります。

STEP4 室内ユニットの据付け っつき

4 ドレン配管を接続する

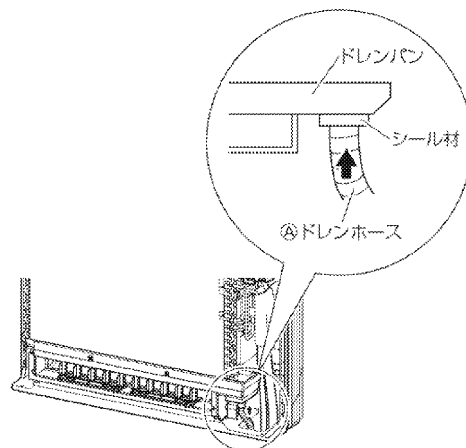
- ドレン工事は確実に排水するように配管する。
- **配管は短く、下り勾配を付ける。**
- ドレン配管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP20(外径φ26mm、内径φ20mm)を使用する。
- **屋内部のドレン配管は結露防止のため、肉厚10mm以上の断熱材で断熱する。**
- 室内ユニットに付属のドレンホース(接続口外径18mm、長さ220mm)で、図の位置までドレン配管を準備する。
 - ◆ ドレンホースとドレン配管の接続は付属のドレン継手を使用してください。
- 配管工事終了後、ドレン排水がスムーズにできるか確認した後、ゴミの侵入を防止するため、テープなどで密封する。

気密性の高い部屋で換気扇などを使用したときに異音(ポコポコ音)が発生する場合はドレンパイプ用逆止弁を使用する。(別売品：K-HDV2516を推奨)



ドレンホースの接続について

- ④ドレンホースをドレンパンの接続口に差し込む。
- ◆ ④ドレンホースは接続口のシール材に密着するまで差し込んでください。

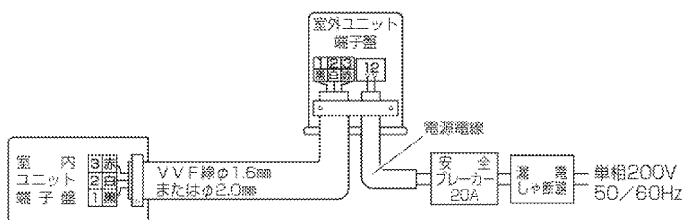
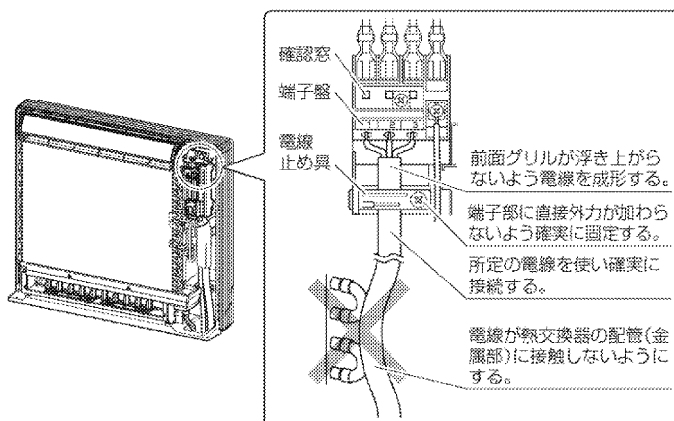


5 電線を接続する

警告

- 現地調達の電気部品を製品内に組み込まない。(ドレンポンプなどの電源は、端子盤から分岐させないでください)(発熱、火災の原因)
- 漏電しゃ断器は通常タイプを使用する。(高感度タイプを使用する場合は、高周波・サージ対応型をご使用ください)

1. センサー取付板を開けて、前面電装品カバーを取り外す。
(詳細はSTEP6 ■ HAシステム(遠隔制御機器)と接続する場合 を参照)
2. 電線の被覆を15mmむく。
3. 電線の色を確かめ、端子盤のそれぞれの挿入口より奥にあたるまで確実に差し込む。
4. 確実に電線が挿入されているか確認窓で確かめる。
5. 電線を引っ張り、抜けないことを確かめた後、電線止め具で電線を固定する。
6. 電線が熱交換器の配管(金属部)に接触しないように配線する。
7. 前面グリルが浮き上がらないよう電線を成形し、奥に押し込む。
8. 前面電装品カバーを取り付ける。



6 ケーシング、前面グリル、前面パネルを取り付ける

1. 冷媒配管、ドレン配管の接続作業後、貫通部にすき間がないようにパテで埋める。
すき間があると、冷媒配管、ドレン配管の結露および虫などの侵入の原因になります。
2. ケーシング、前面グリル、前面パネルを取り付ける。

STEP5 室外ユニットの据付け

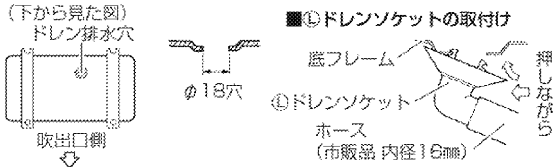
◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

1 室外ユニットを設置する

1. 据付場所の選定と配管位置から設置場所を決める。
2. ドレン水の処理が必要な場合はドレン工事を行う。

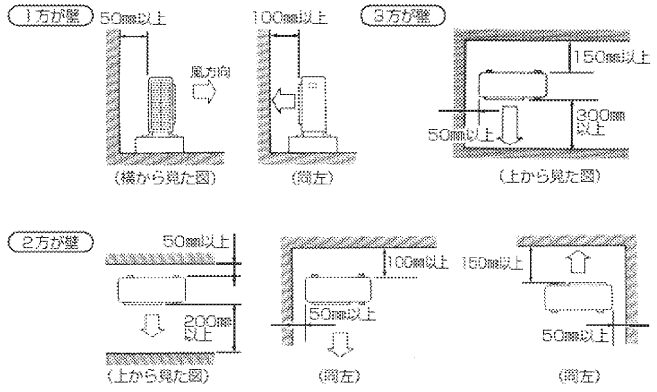
ドレン工事について

- ドレン排水するときは、①ドレンソケットを使用する。
- ①ドレンソケットを底フレームに取り付けるときは、ドレンホースをつないでから取り付ける。
- ドレン排水穴が取付台や床面などに隠れる場合は、室外ユニットの脚下に厚さ30mm以上の間座を入れる。
- 寒冷地では、室外ユニットのドレン排水は「タレ流し」にする。
(ドレンホースを使用すると、ドレン水が底フレーム内で凍結し、暖房効果が損なわれる原因)



据付所要スペースについて

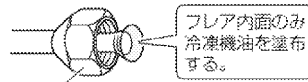
- 吸込口および、吹出口周辺に壁などの障害物がある場所に据え付ける場合、下記パターンに従う。
- 吹出側壁面高さは1.2m以下とする。



2 冷媒配管を接続する

1. ガス漏れ防止のため、フレア内面に冷凍機油(エーテル油)を塗布する。過剰な締付トルクにならないよう、フレア外面やフレアナットのネジ部には冷凍機油を塗布しない。
2. 冷媒配管接続部は、フレア中心を合わせ最初手回しで3~4回転ねじ込み、その後トルクレンチを使用し指定のトルクでしっかりと締め付ける。
 - ◆フレアナットを締め付け過ぎると、長期経過後フレアナットが割れ、ガス漏れの原因になります。
 - ◆フレア内面に塗布する冷凍機油は、従来のR410A用を使用することもできます。
 - ◆異径管継手を使用する場合はガス漏れに注意してください。

フレアナット締付トルク		弁詰締付トルク
ガス側(配管径 9.5mm) 32.7~39.9N・m (333~407kgf・cm)	液側(配管径 6.4mm) 14.2~17.2N・m (144~175kgf・cm)	17mm(2面幅) 14.2~17.2N・m (144~175kgf・cm)
ガス側(配管径 12.7mm) 49.5~60.3N・m (505~615kgf・cm)		19mm(2面幅) 17.1~20.9N・m (175~213kgf・cm)
		22mm(2面幅) 21.6~27.4N・m (220~280kgf・cm)
		サービスポート締付トルク
		10.8~14.7N・m (110~150kgf・cm)



フレアナット
年数の経過による腐食割れを防ぐため、フレアナットは本体付属のものを使用する。

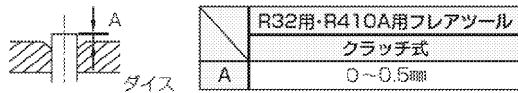
警告
フレア加工は正しく確実に進行。(不備があると冷媒ガスが漏れる原因)

フレア加工と冷媒配管工事について

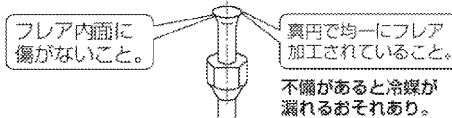
- ①パイプカッターで配管を切断する。
- ②切断面は正しく直角にバリ取りを行う。



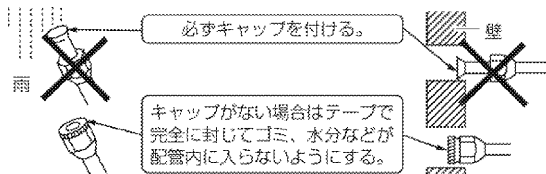
- ③フレアナットを配管に挿入する。
- ④ダイスからの出しろを正しくセットする。



- ⑤フレア加工が正しく出来ているかチェックする。



- 曲げはなるべく少なく、ゆるやかに。曲げる際はパイプベンダーを使用する。



既設配管の接続について

- ◆本製品(R32冷媒)は、R410A冷媒で使用していた既設配管に接続可能です。

配管と断熱の選定

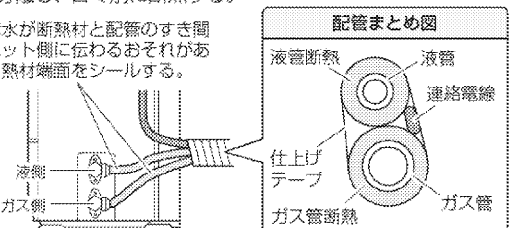
- ◆配管セット(別売品)をおすすめしますが、市販材料使用の場合は次のことを守ってください。
 - 市販の銅管使用の場合
仕様C1220T-O(JIS H3300) 付着油量40mg/10m以下
 - 断熱材材質：発泡ポリエチレンフォーム
熱伝導率：0.041~0.052W/mK(0.035~0.045kcal/mh°C)
(ただし、ガス管は表面温度が最高110°Cになるため、それに耐えるものを使用する)
- ◆液管、ガス管共必ず断熱し、断熱寸法は下記に従ってください。

ガス管	液管	ガス管断熱	液管断熱
外径9.5mm(※1)	外径6.4mm	内径12~15mm(※3)	内径8~10mm
肉厚0.8mm	肉厚0.8mm	肉厚10mm以上	肉厚10mm以上
曲げ半径30mm以上(※2)	曲げ半径30mm以上	-	-

●5.6kW機の場合…(※1)12.7mm、(※2)40mm以上、(※3)14~16mm

- ガス管、液管は分離し、各々別に断熱する。

閉鎖弁の結露水が断熱材と配管のすき間から室内ユニット側に伝わるおそれがある場合は、断熱材端面をシールする。



STEP5 室外ユニットの据付け っづき

3 エアパージとガス漏れ確認を行う

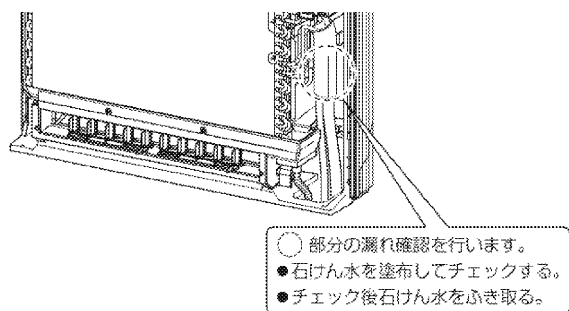
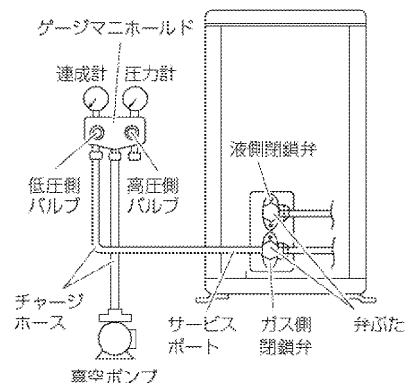
地球環境保護の観点から、エアパージは、真空ポンプをご使用ください。

- R32用もしくはR410A用のツール(ゲージマニホールド、チャージホース、真空ポンプアダプターなど)を使用する。
- 閉鎖弁の弁棒操作に六角レンチ(対辺4mm)を用意する。
- 冷媒配管の接続部はすべてトルクレンチを使用し、所定のトルクで締め付ける。

1. 図を参考に各接続箇所を接続する。
2. ゲージマニホールドの低圧側バルブを全開、高圧側バルブを全開にする。
◆高圧バルブは以降操作しません。
3. 真空引きを行い、連成計が -0.1MPa (-76cmHg)になっていることを確認する。

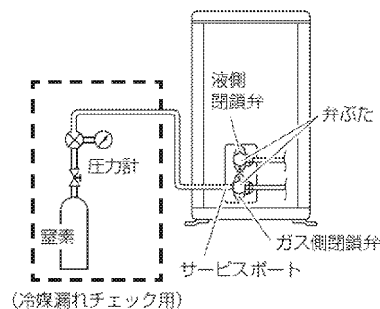
連結配管長さ	真空ポンプ運転時間
1.5m以内	10分以上
1.5mを超える	15分以上

4. ゲージマニホールドの低圧側バルブを全開にし、真空ポンプを停止させる。
◆1~2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認します。
●連成計の針が戻る場合は、水分の混入や接続部の漏れが考えられるため、各接続部の点検、およびナットをいったんゆるめ、締め直した後、もう一度真空引きの操作を行う。
5. 液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外す。
6. 液閉鎖弁の弁棒を六角レンチを使って反時計方向に 90° 開き、5秒後に閉じ、ガス漏れ確認を行う。
7. ガス閉鎖弁のサービスポートよりチャージホースを外し、液閉鎖弁、ガス閉鎖弁を全開にする。
◆弁棒は、あたりがある所で止め、それ以上回さないでください。
8. 液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたとサービスポートのキャップをトルクレンチを使って所定のトルクで締め付ける。



気密試験について

- ◆気密試験を行う場合は、下記の要領で作業してください。
- 室外ユニット閉鎖弁は全閉のまま、窒素ガスを使用して冷媒漏れチェック(気密試験)を行い、圧力低下がないことを確認する。
気密試験は、高圧部の設計圧力まで昇圧させる。(4.17MPa)
- 気密試験後は真空ポンプを使用して窒素を回収する。

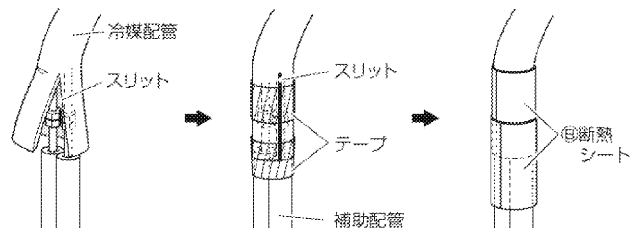


(冷媒漏れチェック用)

4 接続配管の仕上げをする

1. 現地配管の断熱部を接続部に合わせてカットする。
2. 冷媒配管側のスリット部と補助配管の突合せ部にすき間なくテープを巻き付ける。
3. ①断熱シートでスリット部と突合せ部をすき間のないように覆う。

配管の地が見えないように、確実に断熱してください。
断熱が不完全だと水漏れの原因となります。



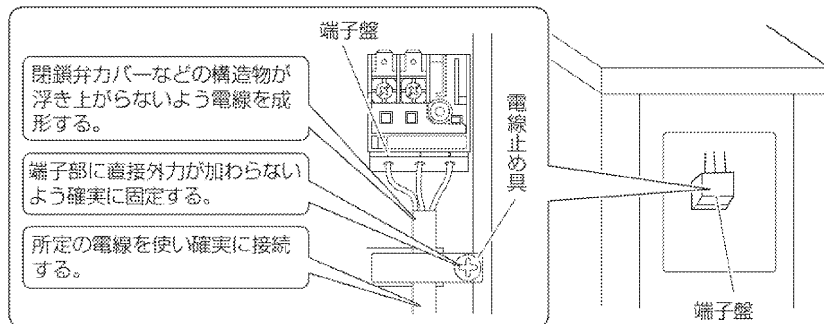
前面グリルが浮き上がらないように、奥に押し込んでください。

- ◆梅雨時の新築物件、新築の鉄筋コンクリート建築、通気のない天井裏など天井内(壁内)相対湿度が80%を超えと思われる場合は、断熱材の外皮表面に結露することがありますので、設置環境に応じて冷媒配管の断熱材を強化してください。

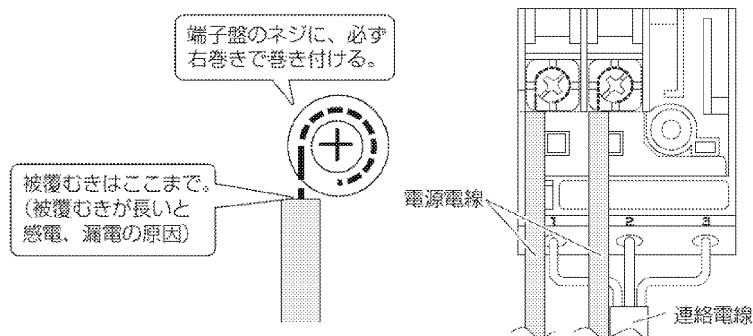
STEP5 室外ユニットの据付け っつき

5 電線を接続する

1. 室外ユニットの端子盤に連絡電線を取り付ける。
 - 取付けかたは、STEP4 5 電線を接続する に準じる。



2. 電源電線を取り付ける。



- 電源電線の最大こう長は表に合わせ、電気設備技術基準および内線規程に従って施工する。

能力帯(kW)	電源電線最大こう長(m)	
	φ1.6mm	φ2.0mm
2.8	11	17
3.6	11	17
4.0	10	16
5.0	10	15
5.6	9	15

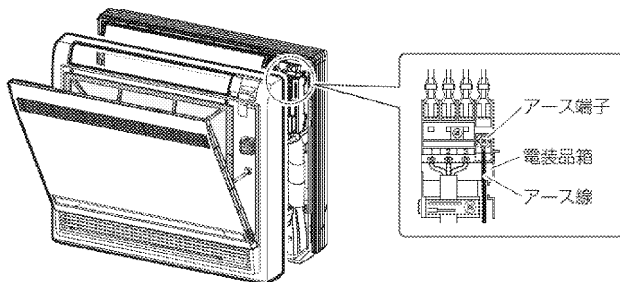
アース線の工事

1. D種接地工事を行う。
 - 接地抵抗は必ず100Ω以下にする。
ただし漏電しゃ断器(定格感度電流が100mA以下で動作時間が0.2秒以下の電流動作型のもの)を取り付ける場合は500Ω以下にする。

アース線の接続について

室内アースの場合

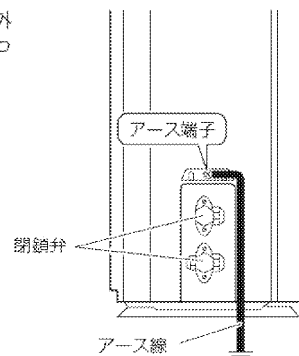
- ①前面グリルを取り外す。(ネジ4本)
- ②センサー取付板を上げて前面電装品カバーを取り外す。
- ③アース線をアース端子に取り付ける。



室外アースの場合

- ◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

- ①閉鎖弁カバーを取り外す。
- ②アース線をアース端子に接続する。

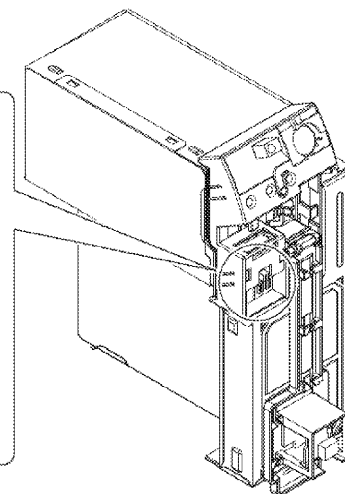
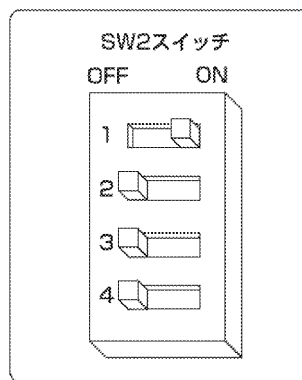
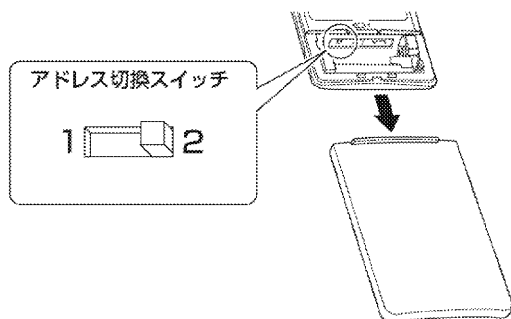


STEP6 必要なときに

同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合

◆同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合、2台のうちどちらか一方のアドレスを設定変更してください。

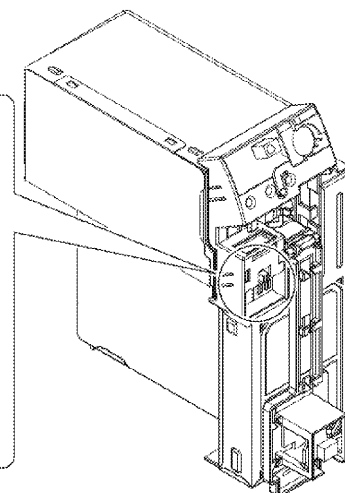
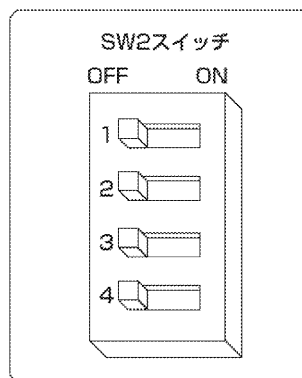
1. リモコンの電池を抜いて、「取消」ボタンを押す。
(リモコンの表示が消えたことを確認してください)
2. リモコンのアドレス切換スイッチを「2」にする。
3. 前面グリルを取り外す。(ネジ4本)
4. プリント基板上的アドレススイッチ(SW2-1)を「ON」にする。
5. 前面グリルを取り付ける。(ネジ4本)



スイッチ設定方法と使いかた

SW2スイッチ1~4 初期設定：OFF

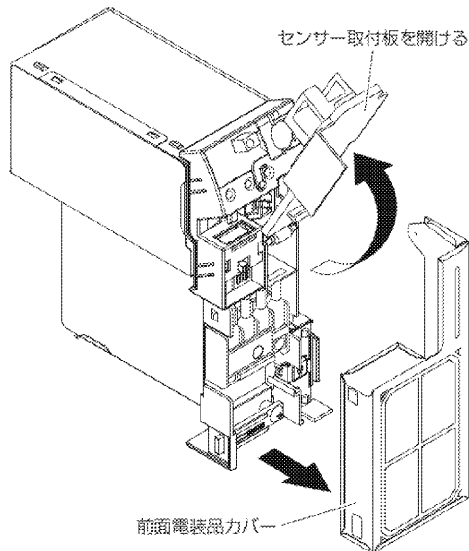
スイッチ番号	SW2-1	SW2-2	SW2-3	SW2-4
設定機能	アドレス	リモコン切換	—	上吹制限
ONにしたときの内容	同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合、「ON」にする。	薄型リモコンを接続する場合、「ON」にする。	使用しません。	埋込設置の場合「ON」にして上吹角度を制限する。



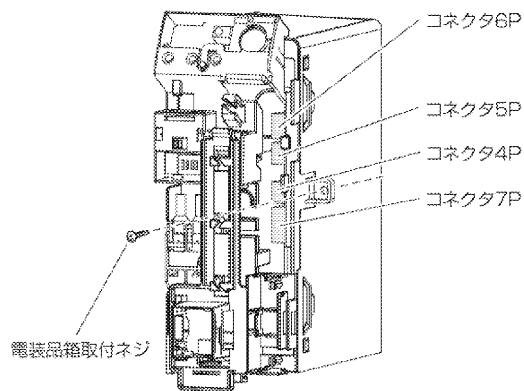
STEP6 必要なときに

HAシステム(遠隔制御機器)と接続する場合

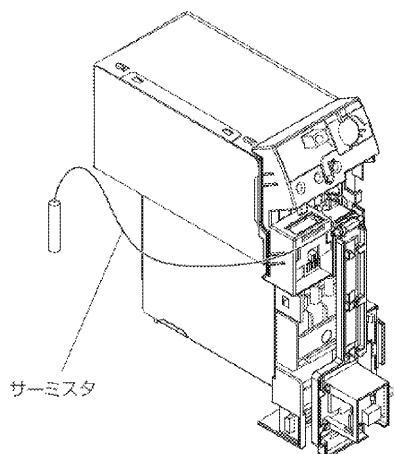
1. 前面グリルを取り外す。(ネジ4本)
2. センサー取付板を開けて、前面電装品カバーを取り外す。



3. 電装品箱のコネクタ4個(4P、5P、6P、7P)を取り外す。
4. 電装品箱取付ネジ1本を外し、電装品箱を取り外す。



5. サーミスタを取り外す。



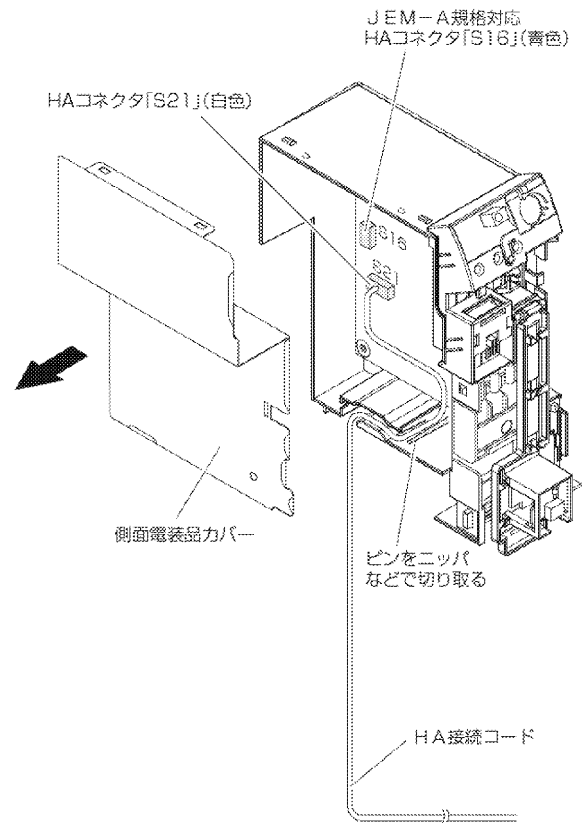
6. 側面電装品カバーを取り外す。
7. 電装品箱内のピンをニッパなどで切り取る。

HAの場合

8. HA接続コードを電装品箱の切り欠き部に通して、プリント基板上のHAコネクタ[S21](白色)に接続し、図のように引き回す。

JEM-A規格対応HAの場合

9. HA接続コードをHAコネクタ[S16](青色)に接続し、HAの場合と同様、HA接続コードを引き回す。



10. 側面電装品カバー、サーミスタを取り付けて、電装品箱を取付ネジ1本で固定する。
11. コネクタ4個(4P、5P、6P、7P)を取り付ける。
12. HA接続コードを室内ユニットの外に出す。
13. 前面電装品カバーを取り付ける。
14. 前面グリル(ネジ4本)を取り付ける。

STEP6 必要なときに

薄形リモコンを取り付ける場合

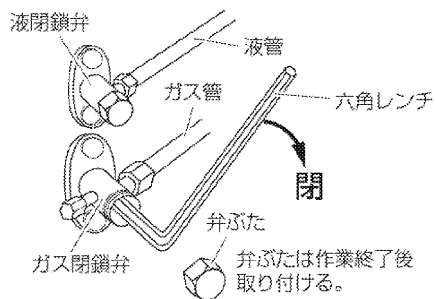
◆薄形リモコン使用時には、ワイヤレスリモコンは使用できません。

1. STEP6 ■ HAシステム(遠隔制御機器)と接続する場合を参考に前面グリル、前面電装品カバー、電装品箱、サーミスタ、側面電装品カバーを取り外す。
2. プリント基板上のリモコン切換スイッチ(SW2-2)を「ON」にする。
3. 接続コードを電装品箱の切り欠き部に通して、プリント基板上のHAコネクタ「S21」(白色)に接続する。
4. 側面電装品カバー、サーミスタ、電装品箱、前面電装品カバー、前面グリルを取り付ける。

エアコンの移設や修理、廃棄するとき **ポンプダウン運転**

◆家電リサイクル法により、冷媒フロン回収を実施します。撤去時にはポンプダウンの上、閉鎖弁をしっかりと閉めて指定引き取り場所に持ち込んでください。

1. ポンプダウン運転を行う。
 - ①液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外す。
 - ②強制冷房運転を行う。
 - ③5～10分後、液閉鎖弁を六角レンチを使って閉じる。
 - ④2～3分後、ガス閉鎖弁を閉じる。
 - ◆強制冷房運転を停止します。



フロンについて

R32冷媒



家庭用エアコンにはGWP(地球温暖化係数)が675のフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄にあたってはフロン類の回収が必要です。

この表示は家庭用エアコンに温室効果ガス(フロン類)が封入されていることを注意喚起するための表示です。

強制冷房運転のしかた

- 室内ユニットの運転/停止ボタンを5秒以上長押しする。
 - ◆「ピピッ」と鳴り、運転を開始します。
 - ◆強制冷房運転は約15分で終了し、自動的に停止します。
 - 強制的に運転を終了させたいときは室内ユニットの運転/停止ボタンを押してください。

STEP7 試運転と確認

試運転を行う

新築物件やリフォームなどの内装工事、床面のワックスかけ時には、エアコンの運転を避けてください。
作業終了後にエアコンを運転する場合は、十分に換気を行ってください。ワックスなどの成分がエアコン内部に付着し、水漏れの原因になります。

◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

◆試運転は必ず冷房または暖房運転のどちらかで行ってください。

1. コンセントの電圧または電源電圧を測定し、仕様通りか確認する。
2. 冷房運転のときは設定温度を一番低い温度に、暖房運転のときは一番高い温度に合わせる。
3. 取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常なく作動することを確認する。
◆停止後約3分間は製品保護のため運転しません。
4. 試運転後は適切な温度(冷房の場合26~28℃、暖房の場合20~22℃)に戻す。
5. アドレススイッチ、上吹制限スイッチ、リモコン切換スイッチの設定を確認する。

◆冬季に冷房運転をするなどの場合は、次の方法で試運転モードにして行ってください。

- ①「運転/停止」ボタンを押す。(運転開始します)
- ②温度▲ボタン、温度▼ボタン、「運転切換」ボタンを3つ同時に押す。
- ③温度▲ボタンを押し、7を選択する。
- ④「運転切換」ボタンを押し、試運転モードを開始する。

◆試運転モードは約30分で終了し、自動的に停止します。強制的に試運転を終了させたいときは、「運転/停止」ボタンを押してください。

◆試運転モードでは、一部の機能が使用できません。

試運転を完了した後で、室内ユニットのファンが回って「ピーッ、ピーッ…」という連続音がする場合は、室内ユニットの冷媒漏れのおそれがあります。
お部屋を換気し、お買い上げの販売店またはお客様ご相談窓口にご連絡ください。
(連続音は30秒以上経過すると消える場合があります。)

据付工事後に、必ず確認してください。

確認項目 チェック項目 欄でチェック(☑)をしてください。

番号	チェック項目	不良の場合
1	<input type="checkbox"/> 室内外ユニットはしっかり据え付けられているか?	落下、振動、騒音
2	<input type="checkbox"/> 光触媒空清フィルターは取り付けられたか?	騒音、結露
3	<input type="checkbox"/> エアフィルターは正しく取り付けられたか?	騒音、結露
4	<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行ったか?	冷えない、暖まらない
5	<input type="checkbox"/> 断熱は完全に行ったか?(ガス管、液管、室内側のドレンホース延長部)	水漏れ
6	<input type="checkbox"/> 室内ユニットのドレン排水のチェックをしたか?	水漏れ
7	<input type="checkbox"/> 室外ユニットのドレン工事が必要かお客様に確認したか?	室外ユニット底面穴からのドレン水の滴下
8	<input type="checkbox"/> 換気扇などを使用した場合、ドレンホースから異音(ポコポコ音)はしないか?	別売品ドレンパイプ用逆止弁使用
9	<input type="checkbox"/> アース線の接続は確実か?	感電の危険
10	<input type="checkbox"/> 「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電線は正しく接続したか? (電線の仕様、接続箇所)	運転不能、焼損
11	<input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸入口、吹出口が障害物でふさがっていないか?	冷えない、暖まらない
12	<input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いているか?	冷えない、暖まらない
13	<input type="checkbox"/> ワイヤレスリモコンの送受信は確認したか?	運転不能
14	<input type="checkbox"/> アドレスの設定は確認したか?	運転不能

機種名	製造番号	据付年月日	据付担当サイン欄

◆この据付説明書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。(据付工事後、お客様にお渡しください)

MEMO

MEMO